

中粒でしわが少ない大豆新品種 「はたむすめ」

東北地域では、大豆作付面積の9割以上が上位10品種によって占められています。そのうち、「リュウホウ」は、秋田県を主産地として、2001年から作付面積第1位の座を維持しています。しかし、「リュウホウ」は、しわ粒などの被害粒が発生しやすいため、最近、気象災害や収穫時期の遅れなどによって整粒割合が低くなり、品質低下や減収を招くことが懸念されています。このような危険性を回避するため、「リュウホウ」と作期分散が可能な品種の導入が望まれています。また、豆腐や納豆の実需者からは、多収と高品質が得られる中粒品種の育成が求められています。そこで、農研機構東北農業研究センターでは、「東北156号」と「ふくいぶき」を交配して、ダイズモザイク病とダイズシストセンチュウに強く、中粒でしわ粒が少ない大豆新品種「はたむすめ」を育成しました。

《「はたむすめ」の特徴》

「はたむすめ」は、ダイズモザイク病や紫斑病に対して「リュウホウ」よりも強く、ダイズシストセンチュウ・レース3に対して「リュウホウ」並の強い抵抗性を示します（表

表1 / 「はたむすめ」の病虫害抵抗性

品種名	病虫害抵抗性（検定場所）			
	ダイズモザイク病 （東北農研）	ダイズシストセンチュウ （十勝農試）	紫斑病 （福島会津）	立枯性病害 （岩手農研）
はたむすめ	強	強	強	やや弱
リュウホウ	中	強	中	中
タチユタカ	強	弱	-	-

表2 / 「はたむすめ」の生育および品質特性

品種名	成熟期	子実重 (対リュウホウ比)	倒伏程度 (評価値)	最下着莢 節位高 (実測値)	百粒重	子実中 蛋白質 含有率
はたむすめ	10月15日	340 kg / 10a (112)	少 (1.8)	中 (19 cm)	27.4 g	41.4%
リュウホウ	10月3日	308 kg / 10a (100)	微 (0.7)	中 (17 cm)	30.2 g	41.8%
タチユタカ	10月15日	258 kg / 10a (85)	微 (0.7)	中 (20 cm)	24.9 g	41.1%

(栽培場所、年次：育成地、2012～2013年の平均)

水田作研究領域

菊池 彰夫

KIKUCHI, Akio



1)。子実収量は、「リュウホウ」より1割程度、「タチユタカ」より3割程度多めです（表2）。子実の大きさは、「リュウホウ」より小さい中粒で、しわ粒の発生程度が「リュウホウ」より少なく、蛋白質含有率が「リュウホウ」並で、豆腐や納豆の加工に適しています（表2、図）。

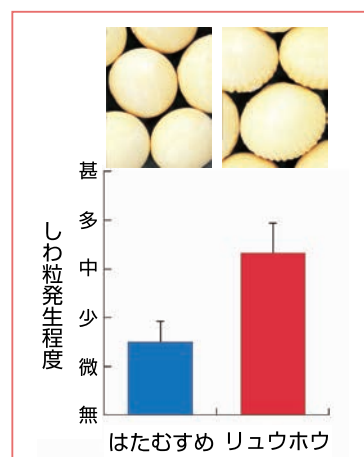


図 / 「はたむすめ」のしわ粒発生程度
(栽培場所、年次：育成地、2012～2013年の平均)

《「はたむすめ」の栽培上の留意点》

「はたむすめ」の成熟期は中生の晩で、栽培適地は東北地域中南部などです。ダイズシストセンチュウ・レース3に強いですが、立枯性病害にやや弱く、過度の連作は収量の低下や土壌伝染性病害の蔓延を招くので、適切な輪作のもとで栽培を行う必要があります。

《「はたむすめ」の今後への期待》

「はたむすめ」は、成熟期が中生の早の「リュウホウ」と組み合わせることによって作期分散が可能となります。「はたむすめ」を耐病虫性で安定多収の良質な中粒規格の国産大豆として普及させることにより、東北地域中南部などを中心とした大豆生産振興と需要拡大に繋がるのが期待されます。

なお、「はたむすめ」は、大豆畑で健やかに生育し、良質な中粒大豆がたくさん穫れて、生産者や実需者から娘のように可愛がってもらえることを願って名付けられました。